

# 女性が拓く未来のテクノロジー ～Women In Engineering 2014～ 開催報告

IEEE JC WIE Vice Chair 矢野絵美  
(リコーITソリューションズ株式会社)

2014年7月5日（土）、IEEE Japan Council Women in Engineering Affinity Group (IEEE JC WIE)は、学校法人東京女子大学との共催で「女性が拓く未来のテクノロジーWomen In Engineering 2014」を開催した。

本イベントは、内閣府 男女共同参画局、日本MOT振興協会、日本経済新聞社、電子情報通信学会、情報処理学会、日本データベース学会、映像情報メディア学会が後援として、日経情報ストラテジーがメディアスポンサーとして協力し、約100名の参加者が集まった。

当日のプログラムおよび講演内容は以下のとおりである。

[http://www.ieee-jp.org/japancouncil/affinitygroup/WIE/20140705/WIE2014\\_flyer.pdf](http://www.ieee-jp.org/japancouncil/affinitygroup/WIE/20140705/WIE2014_flyer.pdf)

IEEE JC WIE 石川佳寿子会長より開会挨拶のち、内閣府 大臣官房審議官（男女共同参画局担当）別府 充彦様より来賓ご挨拶をいただいた。会の進行は、WIE 永島 寛子副事務局長が務めた。

## 【WIE 活動報告】 IEEE JC WIE 会長 石川 佳寿子



JC WIE 石川佳寿子会長より、WIEの紹介と本講演会の趣旨について「時代のニーズをとらえて社会に貢献するテクノロジーの開発には女性の観点が必要。分野を超えて互いの技術を学ぶ場として、分野融合型研究に向けたネットワークの構築の場として、参加者の方々には有意義な時間を過ごしていただきたい」と説明があった。

## 【基調講演】「ロボットは東大に入れるか」 新井 紀子（国立情報学研究所 社会共有知研究センター センター長・教授）

「ロボットって東大に入ってもいいと思う？」という新井氏から若手研究者への問いかけからスタートしたという本プロジェクトについて、「コンピュータにとって難しい事とは？」「計算できるとは何か？」等の質問を会場に投げかけながら、コンピュータが入試を解くためには、どのような考え方や処理が必要なのかについて、科目ごとに異なる必要な技術について説明があった。さらに、社会科の問題を解くための自然言



語処理に関する研究として、含意関係認識技術の進展についても紹介があり、含意関係認識の実現により、キーワード検索を超える検索の可能性についてお話があった。

【参考】 [IEEE Spectrum] Can an AI Get Into the University of Tokyo?

<http://spectrum.ieee.org/robotics/artificial-intelligence/can-an-ai-get-into-the-university-of-tokyo>

【トレンドトーク】「データサイエンティスト女子～『最もセクシーな職業』で活躍する女性たち」小林 暢子（日経BP社 日経情報ストラテジー 編集長）

ハーバードビジネスレビューでも「21世紀で最もセクシーな職業」として紹介されたデータサイエンティストについて、小林氏がこれまで取材を通じて出会った、生き生きと働く女性分析官（データサイエンティスト女子）の仕事ぶりを中心にご紹介いただいた。さらに、データサイエンティスト女子の代表として、オーグス総研の篠田綾さんも登壇し、小林氏との対談が行われた。対談の中で、データサイエンティストにとって、統計分析や機会学習に関する知識はもちろん必要だが、ビジネス課題の本質を見つけ、経営層のような広い視点でどのようにデータに落としたいのか、ビジネスにどう活かしてしていけるのかという視点がより重要である。こういったスキルは強みとなり、様々な事情でキャリアが分断されがちな女性が、キャリアを継続していく上で有効であることが話し合われた。



【技術講演】「心をつかむ商品開発とは」平岡 利枝（三菱電機株式会社 住環境研究開発センター副センター長 兼 製品化技術開発部長）



物があふれている現代の価値創造について、平岡氏が手がけてきた「切れちゃう冷凍」を例に講演いただいた。

これまで冷蔵庫の利用者が食品をまとめ買い・冷凍していたのは手間を減らすためだった。しかし、そのときに生じる小分け冷凍や解凍の作業は仕方のないもの、あきらめニーズのままであった。ここに着目した平岡氏は、着眼点を変えて常識を覆す、モノ目線での「冷やす技術を開発」から、消費者目線の「主婦の時間を創る」冷蔵庫の開発へ取り組み、「切れちゃう冷凍」という新たな技術を開発した。

この技術開発により、三菱電機の冷蔵庫は、「心をつかむ商品」となり、冷凍時の弱みを克服し、さらに「凍結より非凍結がおいしい」「過冷却（瞬冷凍）で使い勝手とおいしさを両立」と、あるべき姿への進化を継続している。この講演を通して平岡氏からは「お客様のニーズをとらえる」「商品開発必要な発想の転換」の大切さについて強いメッセージをいただいた。

【参考】「さくや姫プロジェクト」新製品の着想は日々の気配りにアリ。冷蔵庫でヒットを生み出した経験を家電に活かす。

[http://sakuyahime.jp/?post\\_type=sakuyahime&p=2876](http://sakuyahime.jp/?post_type=sakuyahime&p=2876)

**【技術講演】「CTユーザーインターフェースの開発 ～病院にも患者にも優しい医療機器を目指して」小野寺 春菜（GEヘルスケア・ジャパン株式会社 CTソフトウェア技術部）**

医療機器の開発を希望して学生時代から研究を続けてきた小野寺氏は、幅や厚みが場所によって異なる人間の体に合わせて、放射する X 線量をコントロールし、より少ない被ばくで体内の様子を 3D 化できる CT を開発している。その中で小野寺氏は、病院にも患者さんにも優しい CT を目指して、「患者さんや病院で働くみなさんがどう喜んでくれるか」をいつも考えて開発をしている。

また、最後に家庭と仕事の両立について、「自分が働いている間は息子も保育園で社会性を広げ、自分の世界を広げて頑張っている。息子が大きくなって、自分の仕事に理解を示してくれる日に向けて頑張っていきたいと思っている」とのお話があった。



**【ラウンドテーブルトーク】**

8 つのテーブルに分かれて、参加者全員で議論する時間を設けた。各テーブルでのテーマとファシリテータの一覧を表 1 に示す。



表 1 ラウンドテーブルトーク テーマ

	テーマ	ファシリテータ
A	女性が働きやすい仕事、職場	小林 暢子（日経 BP 社 日経情報ストラテジー）
B	女性の活躍について	平岡 利枝（三菱電機）
C	現在の立ち位置、その立ち位置にいる理由と今後について	田中 三喜子（NTT ドコモ）
D	いま、起業が面白い！	石川 佳寿子（ピコサーム）
E	モチベーションの維持の仕方	小野寺 春菜（GE ヘルスケア・ジャパン）
F	女性 SE という職種について	川久保 智恵（日立ソリューションズ）
G	学び続けるということ	加藤 由花（東京女子大）
H	女性エンジニアを育て活かす	西原 明法（東京工業大学）

#### **A. 「女性が働きやすい仕事、職場」 小林 暢子（日経BP社 日経情報ストラテジー）**

働きやすさとは何だろう？という観点から、各自の状況や考えていることを議論した。参加者のほとんどが所属先で女性が一人という状態で、制度等のちょっとした相談をする相手がいない不便さが挙げられた。また議論していく中で、女性の少なさが直接的な要因ではなく、多様性に欠けるためモノカルチャーになりやすいということが働きづらさの最大の要因なのでは、という意見がまとまった。

それぞれの価値観の違いや立場の違いを許容できる職場であることが女性だけでなく皆が働きやすい職場であるためには重要であり、成果評価等の課題を解決し目指していくべきであると結論付けた。

#### **B. 「女性の活躍について」平岡 利枝（三菱電機）**

本テーブルには、電気系会社の技術者の方、出版社のリケ女担当の方、製薬会社の方、大学の学生と、幅広い分野の方たちが参加され、平岡さんを中心にして参加者全員で「女性の管理職」について熱心に情報を交換し、思い思いの意見を述べていた。

- ・管理職になるチャンスがある女性も増えていく一方で、そのチャンスを掴むことを躊躇する人もいるが、管理職になり「新たなチャレンジ」を通して自分の可能性も広がるので、チャンスは掴んだ方が良い。
- ・女性には複数の物事を「抱えやすくなる」傾向があるが、一人で全てをこなそうとせず人に任せることで自分も新たな物事にチャレンジでき、また周りの人材も成長する。
- ・プロジェクトを進める上で、プロジェクトリーダーとして役割分担を適切に行い、各メンバーの能力をうまく使いこなすことが大事であり、またリーダーとして円滑に進める努力が必要。

#### **C. 「現在の立ち位置、その立ち位置にいる理由と今後について」田中 三喜子（NTTドコモ）**

参加者は、家庭などの事情で自分のキャリアの継続や転換について不安を抱えており、結婚のための転職や夫の長期海外転勤、研究職から管理職の転換などの状況の中、現在の立ち位置と今後のキャリアについて意識すべきことについて、下記のような話やアドバイスがあった。

- ・自分のスキルを活かすことは大事
- ・長所を常にアピール、熱意を見せるのは大切
- ・思いをどのぐらい込めて、伝えるのは大事
- ・いつも前向きでキャリアについて考えるのは重要。
- ・時間軸で携わってきたことを整理するのは大事
- ・キャリアの選択で譲れないことやポイントも重要
- ・目標に向けて、常に学び（つまらないことも）や努力していくことは大切
- ・無意識の中にも、熱意を持って、努力していることは自分のフィールドを見つけことに繋がる

#### **D. 「いま、起業が面白い！」石川佳寿子（ピコサーム）**

最近では女性の起業が増加し、女性の視点ならではの市場開拓や、男性だけではできない部分を女性が補うことで社会全体が活性化するなど、今後、女性経営者は更に増えるという話があった。

その中で、起業の成功には、男性・女性に関係なく、常にビジネスの観点で研究・開発に取り組むことと、創業メンバーとの継続的な人間関係を構築し、いかにビジネスにのめり込むかが重要であるという指摘があった。更に、経営者には、決断のスピードと従業員のモチベーションの管理が求められ、部下が上司の考えや方針を理解できるように、社内での意思疎通を図ること、ネットワークを広げ、社会に対し情報発信を行うことが重要であるという意識が、参加者の中でも多く見られた。

#### **E. 「モチベーションの維持の仕方」小野寺春菜（GEヘルスケア・ジャパン）**

モチベーションの下がり方からその原因や周りの女性たちはどうしているのか等について議論を行

った。

- ・仕事や育児に追われて、流れ作業になっていることに気づいてモチベーションの低下の原因となっている
  - ・女性だから能力が劣ることやそう見られることがあるのではないかなどといった女性だからこそその意見や悩みの一方で
  - ・ずっと懂れていた仕事につけていることが単純にモチベーションとなっている
  - ・女性と男性でどちらの能力が高いということではなく、そもそもコミュニケーションの取り方が異なるからこそ長所がそれぞれ異なる
  - ・変に女性扱いされないことが自然体に仕事に取り組める
- など性別関係なく、自分固有の姿勢や考え方が自分のやる気にもつながっているという意見も聞かれた。

#### **F. 「女性SEという職種について」川久保 智恵（日立ソリューションズ）**

川久保さんより、まず、SEとはどのような職種であるのか、具体的には普段どのような業務をこなしているのかについて話していただいた。川久保さんは現在、チームリーダーとして活躍しており、普段はクライアントの要望に合わせて製品の導入などを行っている。その後のテーブルトークでは、仕事で大変なことから結婚や未来のことまで、参加者からの様々な質問に対し、女性SEならではの目線で川久保さんにお答えいただき、終始なごやかな雰囲気でのディスカッションが行われた。

#### **G. 「学び続けるということ」加藤 由花（東京女子大）**

参加者は、大学院生、企業でお勤めの方、大学教職員と多彩な顔ぶれで、学生時代の専門や最初の仕事から離れた分野で活躍されていた。日々の仕事や研究において、新しいことに挑戦している方が多く、世代や立場を超えて学び続ける必要性や、学びを深める方法について意見交換した。加藤先生からは、業務で新しい知識が求められる場合はスピードが要求されるため、知識をつまみ食いする形になることが多いが、より理解を深めるためにもぜひ体系的に学び直してほしいとの助言があった。

#### **H. 「女性エンジニアを育て活かす」西原明法（東京工業大学）**

女性エンジニア、女性大学教員に加え、女性を部下にもつ男性エンジニア、娘さんが建築学科に進んだ男性エンジニアが参加した。最初に、西原先生による話題提供があった。まず、東京工業大学での女性比率の推移が紹介され、女子学生や女性教員が着実に増えているということが報告された。現在、大学院生は34パーセントが女性だが、教授レベルで女性は2パーセントとのことであった。つづいて、参加者の職場体験、男女の差、理解のない職場や上司への対応、などについて意見交換を行った。問題意識の共有の場として非常に有益だった。

【集合写真】



以上